

国営明石海峡公園 神戸地区
あいな里山公園

紅葉

イロハモミジ
(ムクロジ科)
秋の紅葉の象徴的な植物。本種から多くの園芸品種が作られ、流通しています。

リュウノウギク(キク科)
日当たりのいい丘陵地や山地に生育する白いキク。葉を揉むと樟腦のような香りがします。

カキノキ(実)(カキノキ科)
 果実は食用や柿渋の材料に、葉はお茶になる、有用な植物です。里山には多く植えられています。

アキグミ(実)(グミ科)
秋に実がなるグミの一種。果実は食用になり、果実酒などに利用されます。

ケシロヨメナ(キク科)
シロヨメナの中でも葉の裏や茎に毛が多いタイプ。山地や林縁の木陰でよく見られます。

コバノガマズミ(実)
(ガマズミ科)
春に小さな白い花が咲きます。
よく似たミヤマガマズミよりも
葉っぱが細く、さわるとふわ
ふわした手触りです。

ススキ(イネ科)

秋の草地を代表する植物。秋の七草の尾花です。藍那では、茅葺屋根の材料として利用されてきました。

ムラサキシキブ(実)(シソ科)
紫色の果実が特徴的な木。低地～山地の林縁部などに生えます。

ヤブコウジ(実)(サクラソウ科)
別名「十両」。「千両」や「万両」と並んで、縁起物としてお正月飾りによく使われます。

センブリ(リンドウ科)

湯の中で千回振り出しても
まだ苦みが残るほど苦みが
強いことから、センブリと
呼ぶそう。胃薬としても
利用されてきました。

リンドウ(リンドウ科)

根は生薬として利用されてきましたが、胆汁のようにものすごく苦いことから「竜の胆汁」で「竜胆(りんとう)」という名前になったそうです。

ジョウビタキ(ヒタキ科)
 橙色の胸に、灰色の帽子が特徴的。
 平地や低山の明るい林で暮らす、
 もっとも身近な冬鳥の一種。

ルリビタキ(ヒタキ科)
青色が美しい冬鳥の一種。メスや若いオスは目立たない灰褐色をしています。

ゴマダラチョウ(タテハチョウ科)

成虫は、黒地に白のまだら模様が特徴的な蝶。オオムラサキと同じく、エノキの木の下の落ち葉の裏に隠れて過ごします。背中の突起は3対です。

ノスリ(タカ科)

小型のタカの仲間で、秋から冬にかけての渡りの時期によく姿を見かけます。

オオムラサキ(タテハチョウ科)

冬は幼虫の姿で、エノキの木の下で落ち葉の裏に隠れて過ごします。背中の突起が4対あることで、ゴマダラチョウと見分けられます。

オギ(イネ科)
ススキととてもよく似ていますが、穂の色がススキよりも白く、一本ずつがまばらに生える所が見分けるポイントです。

いきもの

----- 季節のおすすめ散策コース♪
(ゆっくり歩いて1時間)

----- おてがるコース♪
(ゆっくり歩いて30分)

